

(71)0702 意思疎通能力の発達

061115 締め切り 061107 提出

赤ん坊の意思疎通の展開

人間の意思疎通の段階的発達は、最初は物語り風（narrative）に全体として理解し、次いで個別の単語として認識し、さらに単独の単語を拾い・つなぎ合わせて言語とし、会話としてコミュニケートするようになる」と書いたのを読みました¹⁾。何となく理解できるようで、もう一つ理解できないような感じでした。しかし、最近になって、2歳になる孫の発達状態を見ているうちに理解できるようになったと考えています。子供は、生後3カ月とか6カ月といったごく早い時期にでも、こちらの話しかけに対して単語としての言葉を明らかに理解していないようですが、全体的に分かっているような気配があ

ります。例えば、あやすことに対して笑顔を見せたりするようなことです。これは、理解ではなくて、神様の下さった反射機能という考えもあるかも知れませんが。愛らしい笑顔には誰しも感動することを利用して、護って貰うと考えることもできるでしょう。そのうち、こちらの話の中から単独の言葉を拾い出して、適切に反応するようになり、独立した言葉を理解しているのだと分かります。このころは、まだ本人は単独の言語の頭言葉（階段のかなど）などを拾ったりしますが、正確な単語では発音することができないようです。そのうち、単語を話すようになり、次第に会話が成立してくるようです。この経過中に感心するのは、赤ん坊の母や祖母の赤ん坊への対応です。妻も、孫との対話では繰り返し、繰り返し優しく話しかけ、答えることを続

けています。手間をかけ、暇をかけて
います。大抵の孫が、“お祖母ちゃん、
大好き”になる理由が良く分かります。

わたしは、数回パラオに行きましたが、博物館的資料館の壁に絵文字が書いてあるのを見ました。このときの説明では、昔のパラオには普通の意味での文字はなく、絵文字による物語りが書いてあるということでしたが、その意味はもうひとつよくわかりませんでした。今になってその意味が分かったような気がします。

段階的な外国語理解

それで思い出したのですが、わたしばかりでなく、一般に、アメリカなどに留学した場合、最初理解できるのは、おばさんといえるようなある程度の年配になった女性の言葉、正確な意味での言語ではなく、いわゆるボディーラ

ンゲージなどを含めた全体的表現です。
言い方を変えると、雰囲気的に何となく理解できるような状況といえます。
このころには、わたしが英語で話すことは困難な段階です。どうも、この年代の女性は実際に子供を育てた・育てていない経験にかかわらず、本能的に赤ん坊に対するように状況を物語的に説明する能力が備わっているように見えます。この時期に、私が気付いたのは、直接面とむかっては状況を理解することができても、電話を通じて話すと話が理解できにくくなるということでした。言語以外の、ボディーランゲージや、私流にいえば、気の交流などがコミュニケーションの手段に補助的に応用できないからであったと考えられます。以前に、電話で意思が通じるようになって英会話の半人前といったのはこのことです。そのうち、単独の

言語を拾って理解できるようになり、自分でも口頭で言語表現し、次第に会話として成立するようになります。赤ん坊の意思疎通能力の発達と外国語による意思疎通能力の発達段階を対応させてみることができると考えます。

加齢による退行現象

さらに、興味深いのは、私のような老人になると、人の名前などの名称を思いだせなくなることが、しばしばという位ありますが、例えば、いつ、どこで、どんな状況で、何をした人というように全体的な状況の説明（narrative 物語り風）によって特定できるのです。一種の退行現象ですが、赤ん坊が全体としては理解できるようになる最初の段階に戻っていると見ることもできましよう。部分的なボケ現象と考えられますが、わが家では斑（まだら）ボケ

と表現しています。斑部分は、いつも同じ部分が欠落しているわけではなく、あるときにはきちんと充填されており、そうかと思うと、欠落部分が他所へ移ったりします。赤ん坊の場合と少し異なる状況といえます。脳動脈硬化症に特有の現象ともされています。同じようなことで、患者さんから相談を受けることがあります。その時には、「神様は、嫌なこと、必要でないことを忘れるようにしてくださっているのです。だんだん、見えなくなったり、聞こえなくなったりするのも同じことですよ」と説明すると、たいていは納得してくれそうです。

物語でvirtualな思考の発達を

ところで、最近、医学論文などの書き方について、従来とは少し異なった考え方が出てきているようです。わた

しは、試験問題におけるマルバツ、あるいはマルチョイ (multiple choice) 回答方式は、普段の勉強の仕方にもそれに沿うような覚え方をするので適切でないと考えています。人間の能力の特性であるバーチャル（虚像）な世界を創造する能力を発達させないからです。同じようなことが、箇条書きしたガイドライン・マニュアルにも指摘することができます。これらは、元来、全体的に覚えられたものの確認用などとして抜き書きされたものが、手軽さからそれだけが独立したものと考えられます。リスクマネジメントの基本的な考え方は、それをしたら・それをしなかったらどんな結果になるかを虚構において想定・想像することですが、抜き書きを読むだけでは、その能力が発達しないと考えられるからです。それに対して、おそらく昔風の教育によって読み書き

を徹底させ、文章の行間の意味までを理解させることが必要であると考えています。

われわれの医学論文は、通常、分析的と呼ばれ、緒論・方法・結果・考察・結論などの順番に書くように指定されることが多いのですが、このやり方では、ときどき人に理解してもらおうようには書きづらいことがあります。精神科の論文などをのぞいてみると、極めて物語り風であることが多いようです。精神的状態などの説明は、いわゆる科学的・分析的な表現はそぐわないのでしょう。物語的に、包括的に説明した方が説明しやすく、また、理解しやすいのでしょう。これを、narrative-based medicine と呼ぶことがあります。ときには、EBM(evidence-based medicine) に対する対抗概念と考えることもあるようです。

文 献 :

1)Hoffmeyer J: En Snegl Pa Vejen;Betydningens
naturhistorie,1993.

松 野 孝 一 郎 ・ 高 原 美 規 訳 : 生 命 記 号
論 、 p178 、 青 土 社 、 東 京 、 2005 年 。

挿 絵 :

2006 年 10 月 、 北 海 道 美 瑛 です 。 十 勝 岳
連 峰 の 頂 は 、 雪 で 白 く な っ て い ま し た
が 、 小 春 日 和 の 下 界 は ポ カ ポ カ で し た 。
今 年 の 紅 葉 は 、 例 年 ほ ど 鮮 や か な 紅 色
で は な か っ た よ う で し た 。